

令和5年度 第2回 スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和5年11月9日（木）10:00～11:30
場 所	第二委員会室
参 集 者	委 員／中條庸右、齋藤 隆、堀 俊一、齋藤 勉、田中 学、 金子 尚、進藤和真、大滝美樹、穂積 祥 欠 席／なし 酒田市／鈴木教育長、池田教育次長、佐藤教育次長、 齋藤課長、土門課長補佐、高橋主査兼係長、乙坂係長 小林指導主事、高橋部活動地域移行総括コーディネーター
配布資料	資料1 令和5年度スポーツ振興課事業の実施状況について 資料2 令和5年度の事業進捗状況 及び令和6年度の予算要求に向けて 資料3 中学校運動部活動の地域移行に係る現状報告について

1. 開会（略）

2. あいさつ（教育長）

- ・新型コロナの感染が収まりつつあり、スポーツのイベント等も若干の制限がありながら開催できるようになってきている。
- ・今年には本市に関係する選手や団体によるスポーツの活躍が目立っている。今週末にはアランマーレのホームアリーナ戦があり、北の若が活躍する相撲も日曜から九州場所が始まる。齋藤京香さんの活躍も大変うれしいことである。
- ・今日は令和5年度のこれまでの報告と、令和6年度の予算要求について皆さんから意見をいただくとともに、中学校の部活動の地域移行についての説明と進捗状況を報告させていただくので、委員それぞれの立場からの意見を伺いたい。

3. 協議（進行：会長）

（1）令和5年度スポーツ振興課事業の実施状況について **資料1**（事務局説明）

（2）令和5年度の事業進捗状況及び令和6年度の予算要求に向けて

＜基本目標Ⅰ＞誰もが楽しめる生涯スポーツの推進 **資料2-1**（事務局説明）

【質疑応答】

- （委員）鬼ごっこによる体力向上事業について、今年度の対象が9校で、校長先生方に話を伺うと昨年度に引き続き大変ありがたい事業であるとのことだった。子どもたちと年齢が近い大学生が先生役になること、大学生が考えた鬼ごっこを教えてもらい、子どもたちも考えチームで作戦を立てながら鬼ごっこに取り組んでいることもあったと聞く。休み時間の、子どもたちの遊びにもつながっていてよかったとのことだった。可能であればさらに学校数を増やしていただきたい。遊び方を紹介していただければ学校側でも対応できるので、ぜひ拡大してもらいたいと考える。
- ⇒鬼ごっこ事業に要望のあった13校中9校で実施している。学生の授業の合間に出向いているため、旧三町の小学校を外している。来年度は、回数は減るかもしれないが大学側と調整しながら旧三町の小学校での実施を検討したい。

- (委員) 令和6年度予算要求にあるスポーツ能力測定会の実施について、運動が好きな子どもを増やすことを目的としているが、子どもたちの運動能力の現状を把握することと、体を動かすことが好きな子どもたちを増やす、この2つを目的とすることでよいか。
- ⇒学校においても体力測定を実施しているが、それはスポーツ能力を測るものではない。スポーツ能力測定は個々の運動能力を6種目、モーションキャプチャーを使って測定して、子ども一人ひとりに合う、スポーツに向いている種目を測り、スポーツに取り組むきっかけづくりとするもの。親や兄弟に左右されない、ほかのスポーツに向いている可能性を伝えたい。昨年度は全64競技のうち、酒田市でできる48の競技に絞って紹介し、同時に市内のスポーツ少年団の一覧を配付した。
- ⇒体力測定の延長上にあるものではなく、子ども一人ひとりへのスポーツ競技のアドバイスになる。令和3年度はノエビア財団からスポーツ能力発見協会にお金を出していただき、酒田市はそれを利用させてもらったもの。
- (委員) 今の説明だと、資料にもっと詳しく掲載する必要がある。子どもの適性を測るなどの具体的な内容があった方がよい。

- (委員) スポーツ鬼ごっこに関して、学校側からとてもよい取り組みとのことだったが、幼稚園でも酒田市において「もっと遊べ酒田の子どもたち」という取り組みがあった。それぞれの園で、子どもたちに体力向上のためのきっかけ作りをしてもらったと思う。多くの学校が実施を希望していても実施が難しいようであれば、大学生の実施した記録があると、ほかの学校でもそれをもとに取り組めるのではないか。
- (委員) 酒田市において「する・みる・ささえる」のほかに「しる」という項目も加え、子どもたちが自らスポーツ鬼ごっこを考え広がっていくと、子どもたちの体力向上になるのではないか。そうした記録を活用し学校に配布できたらいいと思う。

- (委員) 日本スポーツ協会では、アクティブチャイルドプログラムというものを盛んに行っている。9月2日から3日にかけて東京で講師講習会があり参加した。庄内地区において12月2日に三川町のテアトルにおいて講習会を開催する。全国で実施している遊びの様子の紹介ビデオを、資料として講師講習会でいただいている。先日の講師講習会では、例えば全国柔道連盟において推奨するとされていた。最初から柔道に取り組むのではなく、遊びから入ってもらい柔道に向けていくとかたちを考えているとのこと。
- (委員) スポーツ能力測定会では、体にセンサーを付けて体の動きを詳しく分析するもので、非常に参考になるものだった。その子に適したスポーツとして20から30競技も出てきて、親が困惑している様子も見られたが、子どもたちにとってよい体験の場だと思われた。

＜基本目標Ⅱ＞感動と活力に満ちた競技スポーツの推進 **資料2-2** (乙坂係長説明)

【質疑応答】

- (委員) 北の若の活躍について記載があってもよかったのではないか。予算に関わることではないが、トップレベルのスポーツ競技であり、市民の関心も高い話題である。
- ⇒北の若を応援する会があり、市長公室が担当している。スポーツ振興課では懸垂幕を掲示している。スポーツ振興課において地元のスポーツ選手を応援していくものとして取り上げ、記載することを検討したいと思う。

＜基本目標Ⅲ＞スポーツによる賑わいとまちづくりの推進 **資料2-3** (乙坂係長説明)

【質疑応答】

○（委員）つや姫ハーフマラソン大会について、小学生等の子どもたちの種目や、5kmの種目が今年もなかったのはなぜか。マラソン大会の参加者は年齢層が幅広く、走るのは手軽にできる運動であり、大会があると園の保護者も張り切って参加している。卒園生が大会に出ていたりもしていて、子どものうちからスポーツに触れる機会があるのはよかったのだが。

⇒大会開催のための実行委員会があり、その中の競技運営部会において、以前のような競技種目に戻したいと提案させていただいた。競技運営部会には、大会の開催に協力いただく陸上競技協会が関わっているが、役員の高齢化もあって以前のような種目の実施は難しいとされ、今年度はハーフと10kmの種目に決定した。

⇒遠方から参加される方はハーフ、10kmでいいが、地元の人であれば5kmの参加も見込まれ、事務局としては実施したいと考える。陸上競技協会からの協力をいただかない運営方法での実施を、来年度提案したいと考える。

○（委員）明日、市長がスポーツ・健康まちづくり優良自治体として表彰を受けると聞いているが、今回の審議会資料に載っていない。北の若と同様に、市がスポーツを通じたまちづくりを行っていることを周知する機会があつてよい。部署が違うとはいわずに、教育委員会で連携してほしいと思う。

⇒明日、市長がスポーツ庁に赴いて、スポーツ・健康まちづくり優良自治体の表彰を受けてくる。このことについては情報統制をしっかりと行うよう指示があつた。この表彰についてはアランマーレによる小学生への食育活動やジュニアチームを指導するなどの活動が、まちづくりに貢献していることから対象になったもの。この表彰は明日になれば公表される。北の若の入幕についても事前に情報は入っていたが、日本相撲協会の発表よりも前には発表できなかった。

○（委員）市民体育祭について資料にあるが、令和6年度以降の構想があるかお聞きしたい。

⇒来年度からどのようなかたのものにするかは検討中である。

○（会長）これまでの市民体育祭は各学区あるいは公民館単位の体育振興会による、飛島を入れた25チームによるものであった。令和5年度は八幡、平田、松山、飛島、富士見のチームが参加せず20チームによる大会だった。運動会形式は今年度限りで終わりとし、来年度以降どのようなものにするか、各地区の体育振興会の皆さんに意見を伺った。競技として競い合うだけでなく、親子で出場できるものや軽スポーツがあつた方がよいとの話が出ている。

○（会長）国体記念体育館を使って屋内競技を、飯森山多目的グラウンドで屋外競技を行い1か所で開催できればいいと考えている。来年1月に3回目の理事会があり、ある程度の道筋を立てたいと考えている。モルック、カローリング、フロアカーリング、ボッチャを室内で、綱引きや洗濯物干し、貯蓄リレーを屋外で、親子でもできる楽しめる種目として考えたい。

○（委員）子どもの運動離れが気になっている。競技としての種目になると、地域で選手を集めるのに苦勞すると聞いている。楽しく遊び感覚で参加できるようなイベントになれば、参加者も増えるのではないか。

<基本目標Ⅳ>安全安心なスポーツ環境の整備 資料2-4（高橋主査説明）

【質疑応答】

○（委員）今年度話題になったのが熱中症だった。熱中症への対応や冷房設備の設置につい

- て、今回の審議会には記載がないが、第3回で説明があるか。
- ⇒熱中症の対応として、今年度体育館等に熱中症指数計を配置した。各施設の管理人から利用者へ声をかけてもらい注意喚起を促した。また、施設利用のキャンセルは1週間前までが無料であり、当日のキャンセルにはキャンセル料をいただいているところだが、熱中症対策を理由にしたものについてはキャンセル料をいただかない措置をとった。
 - ⇒熱中症指数計では注意程度であったとしても、利用者が熱中症の予防のためとする場合のキャンセルにも対応した。施設の閉鎖は行わず、利用者による個々の判断としてキャンセルする場合に、キャンセル料を取らない対応を行った。
 - (委員) 体育施設の熱中症への対応について話を伺った。全国的にも熱中症について注目されたので、今回の審議会資料に掲載されるべきであったと思う。
 - ⇒3回目の審議会資料に対応に掲載したい。

 - (会長) 中学校の体育館に、可動式の冷房を導入する話が山形県であるようだが。
 - ⇒山形県では、中学校の体育館に冷房装置の設置とっているが、本格的な冷房ではなく、子どもたちの体をクールダウンさせられるような冷風装置の導入を県が補助することによって事業化している。これを受け酒田市では、9月の市議会定例会において補正予算を上程し、市内の各中学校に2台ずつ大型の冷風装置を導入することについて議決を得た。年度内に配置を進めたいと考えている。
 - ⇒小学校の体育館についても、例えば避難所になるなど運動以外に使用する可能性があり、県に補助を要望していく。

 - (委員) 国体記念体育館と光ヶ丘野球場は来年度使用が可能か、八幡体育館の来年度の使用はどうなるのか伺いたい。
 - ⇒国体記念体育館は、現在の予定では今年度末で工事は終了するので、令和6年4月から使用可能である。光ヶ丘野球場も令和6年4月以降使えるが、工事にかかる令和6年度の予算要求の結果により、スタンドのバックネット側で試合観戦ができない期間が2か月程度発生する可能性がある。
 - ⇒八幡体育館は現在の設計業務委託が来年の5月末までとなっていて、それが完了してから現在の体育館の取り壊しに入るので、令和6年6月か7月から使用できなくなる。

 - (委員) 体育館や野球場の施設整備が助成金や交付金を活用しながら進んでいるが、市ではネーミングライツの募集はしないのか。
 - ⇒ネーミングライツの導入と、どの施設を対象にするか庁内で会議をして検討している段階である。
 - ⇒ネーミングライツはスポンサーがつく話であり、整備されていない施設にはスポンサーがつかないため、施設整備を進めていきたいと考える。

 - (委員) アランマーレを市議会でも応援し、北の若の活躍やスポーツによるまちづくりの受賞もあり、スポーツ都市宣言をする機会に熟していると考えられるがいかがか。議会等での関係で難しいことなのだろうか。市がスポーツ都市宣言を行うことで、ソフト面だけでなく施設の整備などのハード面でも期待され、市内で盛り上がるのではないだろうか。
 - ⇒酒田市では暴力追放や平和都市、日本一女性が働きやすいまちづくりを目指す、交通安全など、いろんな都市宣言をしている。宣言のしかたは様々あり、会合で宣言するほか平和都市宣言の場合は議案として議決を要した宣言だった。議会での決議という方法もある。どのような形がいいのかの検討と、宣言しただけで何も実行されないわけにはいかない

ので、宣言に伴い何を実行するか議論を重ねていきたいと考える。

(3) 中学校運動部活動の地域移行にかかる現状報告について **資料3** (事務局説明)

- ・令和5年度から7年度の3か年で、各中学校区を基本として休日の運動部活動の地域移行を進めようとしている。今年度は市内の中学校7校のうち、一中、四中、東部中において、地域の総合型スポーツクラブを母体として休日の部活動の地域移行の体制が整えられてきている。
- ・令和5年度から、県からの委託事業である部活動改革体制整備事業を実施しており、これを活用して部活動地域移行総括コーディネーターを配置している。また、今年度、新しくクラブの指導者への支援も実施している。
- ・現在はコーディネーターを中心に地域移行の計画の策定を行っている。まだ本格的に地域移行が実現できていない4つの中学校区において、地域移行の準備を進めるとともに、市内全域において指導者の確保に向けた準備を進めている。

- ・コーディネーターの役割は部活動の地域移行であるが、その前提として部活動の改革がある。部活動を地域でやってくださいと丸投げするのではなく、子どもたちのために地域の力をお借りしながら改革を行い、地域移行を進めたいと考える。
- ・子どもにとって望ましいスポーツ環境を作っていくことと、教員の働き方改革の推進の両立が重要である。今まで部活動は学校の活動であったが、今後は子どもたちの休日のスポーツ環境をいかに整えるか、学校の体育の授業、カリキュラムではなく、子どもたちが進んでスポーツに取り組んでいくことを目指したい。
- ・令和8年度からは酒田市でも、休日の部活動は行われなくなる予定である。そのため、土日についてクラブがない、あるいはクラブに所属していない場合は子どもたちの活動が保障されなくなることからこの3年間で推進することとしている。
- ・クラブに入会するメリットとデメリットがあり、そこに地域移行にかかる課題があって、その課題を一つ一つこの3年間で解決していくとしている。推進期間であるこの3年間に計画を立てて進めていくが、これを具体的の実現させるためにはこの審議会にいる皆さんや、地域の方々の理解と協力がなければ進められないものではない。子どもたちのスポーツの推進を地域で、クラブとして一緒に見て支えてほしい。

- ・部活動の地域移行を進める中で、指導者不足が大きな課題となっている。現在の指導者は147名だが、各クラブに2名以上指導者を配置するとすると100名以上不足する。そのため指導者ではなく、まずはサポーターとなっていただくことから始めることとして、このたび酒田市スポーツサポーターを募集することとした。市の広報誌やホームページ掲載のほか、ハーバーラジオにも出演させていただき募集を呼びかけているが、なかなか皆さんに認知されていない状況にある。

- ・11月25日には文化センターでスポーツサポーターの講習会と説明会を開催する。この説明会に参加して話を聞いたのちに、サポーターへの登録が進むものと期待している。

【質疑応答】

- (委員) 部活動の地域移行について、山形県の動向や状況はどのようなものか。
⇒休日部活動の地域移行にかかるこの3年間の取り組みについて、県教育委員会は支援することを方針として出している。合わせて令和8年度以降は、原則休日の部活動は実施しないこととしている。そうした県の方針に基づきながら、酒田市では独自の計画を立てて取り組みを進めるものとしている。

⇒部活動の地域移行の取り組みについては県内でもかなり温度差があり、庄内地域は取り組みが進んでいる方である。他県では、全く進んでいないところもある。教育長会議などに出席した際にも話題になり、このことについてはもうしばらく時間がかかると思われるが、酒田市や鶴岡市を含め庄内地区は県内の中でも取り組みが進んでいる。

5. 閉会（略）

以上